



# たかしま takashima

広報たかしま 2006.7.1発行

Takashima 2006 July No.22



## 爽やかな梅雨の晴れ間

丹精こめて育てた花苗を リヤカーに積んで地域を巡回。  
恒例の花苗販売の体験学習も 今年で10年目を迎えました。

【新旭養護学校高等部「花販売交流」にて】

### CONTENTS 目次

なぜ、今、市民協働なのか	2・3
タウンピックアップ	4~10
市長日記・シリーズ環の郷	11
教育委員会Information	12・13
みんなで子育て親育ち！地域で子育て、親育て！	14・15
健康生活してますか？	16・17
そうだ、図書館に行こう！	18・19
まちネタ写真館	20・21
みんなのページ	22・23
情報お知らせ版	24~29
文化情報	30・31
お知らせ 病院・警察・窓口・納税	32・33
行事カレンダー	34・35

7月号  
平成18年



Home Page Address  
<http://www.city.takashima.shiga.jp>  
Mail Address  
t-info@city.takashima.shiga.jp

発行・編集 高島市役所企画部秘書広報課  
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町1-1-1 565番地 ☎074925-8130  
高島市ホームページ <http://www.city.takashima.shiga.jp>  
高島市メールボックス t-info@city.takashima.shiga.jp



## 高島市 歴史散歩

No.19

### 蒸気船時代の賑わいと棧橋の成立

琵琶湖に最初の蒸気船「一番丸」が登場したのは、明治2年(1869年)3月のことです。この「一番丸」は、船体の横に大きな水車をつけた外輪船で、大津と海津間で運航を開始しました。これに続いて、同年6月には「二番丸」が、4年2月には海津の船問屋・磯野源兵衛によって建造された「湖上丸」が就航するなど、数年の間に琵琶湖には多くの蒸気船が行きかうようになりまし。ところが、船の数が増えた結果、蒸気船間の競争が激化し、過積や無理な速力アップによる沈没などの事故が相次ぐようになりまし。滋賀県では、こうした事故を未然に防ぐため、汽船取締会所を設けるなどの対処策を講じまし。沈没は一時的なものではありまし。この汽船間の競争が続く一方、この

時代は、新たな交通体系である鉄道の敷設が滋賀県下におよんできた時期でもありまし。東海道線の当初の敷設計画は、琵琶湖水運を利用できる大津と長浜間の敷設を省略し、京都と大津間および長浜と敦賀間から工事を進めるといふものでし。こうした計画が進むなか、大津と長浜間を鉄道連絡航路として新たに整備する計画がもちあがり、大阪の実業家・藤田伝三郎とこれまで湖北を営業地域としていた船主たちの合同で、明治15年5月、太湖汽船会社が設立されまし。本社は大阪におかれ、貨客取扱所と呼ばれる支社が今津・船木・大溝(現、高島市)・長浜・塩津に設置されまし。ただ、開業当初、高島市内の各港には棧橋がなく、しばらくの間

は小船が大型蒸気船と港を結び役割をしてまし。棧橋は、地元住民たちの合資による会社の設置により建造され、明治33年に勝野と今津、38年に海津、41年には船木に棧橋が完成しまし。さらに42年には深溝港の開港に尽力した藤本太平次の献身的な努力によって、深溝港にも棧橋が新設されまし。こうして、昭和初期の江若鉄道の開通までの間、太湖汽船は高島の人々にとってもっとも身近で重要な交通手段として活躍することになりまし。(文化財課)



美しい海津の桜トンネルをつくるのは、「肥料」とこれを支える「人の心」です。(マキノ町海津にて)

編集後記

▼梅雨空の雲の切れ間から降り注ぐ太陽が、夏の訪れを予感させまし。汗ばむほどの日差しを遮る海津大崎の桜並木は、木々の葉を色濃くし、湖面にその姿を映し出してまし。この地域の誇りをいつまでも守り伝えていこう、多くの市民の皆さんが保全活動に参加されてまし。中には、同窓会活動として取り組まれたりの方もあり、これまでに培われた人と地域のつながりが、この活動には根付いてまし。▼今月の表紙は、6月16日に行われた新旭養護学校高等部の花販売交流の様子をご紹介します。立派に育ったマリィゴールドやベゴニアなど、数種類の花苗をリヤカーに積んで地域を回る姿は、もつとっさり夏の風物詩になってまし。生徒たちから地域の人たちへ託された花苗は、地域でしっかりと根を張り、美しい花が行き交う人の心を和ませてくれるでしょう。そんな光景を思い浮かべながら、人と地域のつながりに置き換え見るのは、私だけでしょうか。(広報担当)